

# 小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文



令和元年11月号  
No. 544

## こころのふるさと



校長 佐藤 正文

小竹の町には、保護者、地域の方々が中心となって子供たちの心を育ててきている活動がたくさんあります。企画、運営されてきた方々と出会い、お話を聞かせていただいた時、地域をこよなく愛する気持ちをもたれて活動されている姿に、いつも心を動かされます。

桜台地区まつり、相撲大会、小竹の森音楽祭、葉かげの集い、学校応援団まつり、さくらまつり、野球、サッカー、キャッチバレーボール、ソフトテニス、児童館まつり、錦華学院お楽しみ会、小竹町会文化祭展、日大大通り商店街フェスティバル、神社のお祭り、こたけあそび等々、子供たちが、いくつになっても「ふるさと」の情景として、心に残っていくことでしょう。

そして、私たち大人の見せる後ろ姿一つ一つが、子供たちの心に「ふるさと」を深く刻み込んでいくものだと信じています。

私は、今年も小竹の森音楽祭の混声合唱団に参加しました。児童合唱団の指導もされた戸尾美和先生から最後にいただいた言葉です。

「Grazie! A presto ♪」(イタリア語)

ありがとう! また会いましょう♪

夢と希望と元気をいただくことができた貴重な経験でした。合唱団はもちろんですが、素敵なメンバーが、たくさん集う小竹の町には、子供たちが生き生きと過ごす未来があります。

最後になりますが、「ふるさと」の歌、音楽祭の最後を飾る全員合唱「大空高く」

(佐藤公泰 作詞 佐怒賀悦子 作曲)

第2番の歌詞を紹介いたします。

♪

人よ人よ しなやかに伸びる  
若竹のように 悲しみも 喜びも  
やさしく包む 人を愛し 生きる力が  
沸きあふれ 望みを生み出す  
小竹の町並み ラララ ♪  
大空高く舞い上がれ 我らのハーモニー

先の台風15号、19号、記録的な大雨による災害において、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみを申し上げますと共に、被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧することを願っております。

被災された各地の様子を見聞きし、思っていた時、次のような言葉と出会いました。

育ったところ、必ずしも家庭ではない  
心を育てられたところが家庭である。  
学んだところ、必ずしも母校ではない  
よき師よき友に巡り会えたところが  
学校である。  
生まれたところ、必ずしも故郷ではない  
心をとどめたところが故郷である。

「ふるさと」は「心を育てくれたところ」。

学校、家庭、地域が、今を生きる子供たちの健やかな育ちを、それぞれの果たす役割を担い、優しくも厳しく、私たち大人の後ろ姿を通して、子供の心を育てていくことが大切であると感じました。家庭も学校も地域も、「ふるさと」として思うことができないまま、子供から大人へと大きくなっていってしまわないようにしていきたいものです。

1町会1学校である小竹小学校。地域である

木漏れ日射す 緑に憩う 小竹の町で  
四季に折りなす 風のささやきを聞く  
一人一人の心の音が ともに大きく  
響き合い 生きる喜びと感謝へと  
われらを誘う ラララ♪  
大空高く舞い上がれ われらのハーモニー